



# 浜田市井野地区

わたしの幸福 = みんなの幸福 = 井野の幸福  
支え合いの地域づくりへ

傾斜地が多く、日本棚田百選に選ばれた室谷の棚田を有する、美しい景観の残る井野地区。自宅からバス停までの距離が遠く、車を運転できない高齢者が外出に困っている現状は、地域にとって大きな課題でした。まちづくり推進委員会を中心に話し合い、学び合いながら課題解決に向けた取組が始まっています。

## これまでの地区のあゆみ

H21 「まちづくり推進委員会INO」を設立

H24 「井野元気な地域づくり計画」を策定  
(第1期:H24-H28年度までの5カ年計画)

H26 県の現場支援地区に選定  
(H26.11~R2.3)

H29 「井野の魅力ある地域づくり計画」を策定  
(第2期:H29-R3年度までの5カ年計画)



計画策定に向けた話し合い

H30 「井野地区公共交通空白地有償運送」による運行開始



愛称は「井野っ地号」に

R3 買い物支援、集いの場として「いのまる広場」を開始

## Step 小さな拠点づくりのステップ

### step.1 共有 住民の声を集める

委員会役員の固定化などによる活動の停滞が問題となる中、改めて地区の活性化を図ろうと平成27年にまちづくり推進委員会で検討を開始。全住民を対象に「くらし」「子育て」「福祉」「産業」「地域づくり」について、アンケートを実施しました。

### step.2 計画 井野で暮らし続けるために

アンケートの意見を基に、出身者や井野地区を拠点に活動する地域内外の人も含め、話し合いを重ねました。「何のために活動するのか」など目的を意識して平成29年に第2期計画を策定。①交流・定住・活力、②環境・魅力・農林業振興、③支え合い・安心を計画の柱とし、楽しく笑顔で暮らし続けることができる地域を目標としました。

### step.3 体制 多様な主体が参画する組織を目指して

計画の3つの柱を基本に委員会に部会を設立。自治会やサークルなど50を超える地域団体から部会メンバーを選出し、活動を開始しました。

### step.4 実践 我が町の課題を我が事として

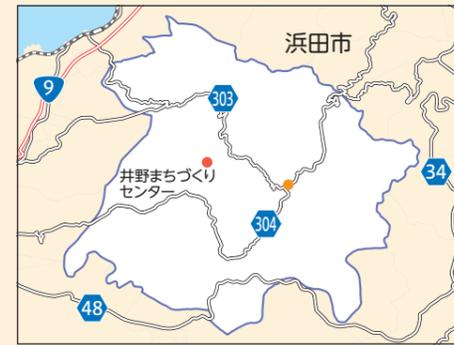
住民の「移動」を支えるために、生活交通の取組として「井野っ地号」を運行。また、災害時の要支援者、地域の危険箇所を把握し、自分達で考えたシナリオに基づく避難訓練や、住民の交流などを目的とした「いのまる広場」を始めました。活動を通して「自助」と「共助」の意識を育み、子どもから高齢者まで互いに支え合い、生き生きと安心して暮らすことを目指し活動しています。

### step.5 発展 新たな組織で次のまちづくりを考える

一方、役割の多さが個人への負担となり停滞する活動も。委員会の会長と事務局を中心に、次を担う人材へ声をかけ組織再編に向けた「組織検討委員会」を設置。話し合いを通して参加者の意識醸成を図りました。現在、新体制で次の5年を見据えた話し合いを始めています。

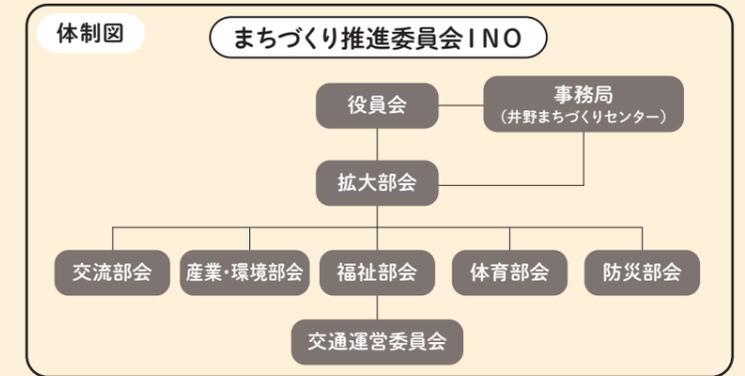


組織見直しに向けた話し合いの様子



●市役所・支所 ●公民館等 ●教育機関等  
●医療機関 ●買い物施設 ●ガソリンスタンド

- 人口 636人(高齢化率 59.9%)
- 地域の特徴
  - ・浜田市三隅町の東部に位置し、町の中心部から車で約10分
  - ・地域には商店が1つ、医療機関は無い
  - ・最寄りのバス停まで距離があり、公共交通機関による移動も不便



## Pick UP 私たちのやり方 Our Project



### 住民が住民を運ぶ 井野っ地号 公共交通空白地有償運送

平成30年に地域住民で「井野地区公共交通運営委員会」を結成。住民からの予約を受け、平日の午前中に井野地区から三隅町中心部までをドアツードアで運行します。隔月1回、利用者へのサポート内容や工夫、運行上の注意事項などを共有する運営委員会を設け、活動の改善に繋がっています。令和2年度は累計836人もの移動をサポートしました。※国の制度改正により、現在は交通空白地有償運送として運行しています。

#### まちのひとの声

**利用者** 足が悪くなりバス停までが遠く大変でしたが、予約をすると家まで迎えに来てもらえ買い物も便利に。重たい物を購入した時は本当に助かります。

**実践者** ドアツードアでの利用を皆さん大変喜ばれています。私達ドライバーも利用者の方々の声が届きます。

step.1 課題 平成27年の全住民アンケートによると「移動手段の確保」が大きな課題となっていました。市営バスを利用する時の自宅からバス停までの移動にも困っている人がいました。

step.2 計画 戸別訪問によるヒアリングを実施し、想定以上のニーズがあることがわかり、スピード感をもって進めるため、井野地区公共交通運営委員会を立ち上げて検討。継続的な取組となるよう、利用料金を設定し、ドアツードアで送迎する公共交通空白地有償運送を進めることにしました。



安全講習会風景

step.3 トライ 3回の試験運行を経て、任意団体が有償運送を行った県内初の取組として、平成30年に本格運行を開始。乗降の際に利用者へ手を差し伸べて荷物を運ぶなど、徐々にドライバーの自発的な行動が生まれ、「共助」の意識が芽生えています。

step.4 改善 日々の運行の中で利用者の声をひろい、サービスを拡充。また、委員会メンバーが戸別に訪問、周知することで理解促進を図り、利用者の登録につながりました。

step.5 これから 利用者と運営者間の関係構築が進む一方、時間外の連絡があるなど予約ルールが徹底されないこともあり、運営側の負担となっていました。ルールの徹底や受付体制の見直しを進め、次の世代が同じルールの下で運営できる体制を目指します。

## 声かけあえる場所へ「いのまる広場」

まちづくり推進委員会と浜田市、市社会福祉協議会の3者が連携し、令和3年に「いのまる広場」(旧称いのまるマーケット)を立ち上げました。地域で支え合う体制の構築を目指し、移動販売、サロン、健康相談を毎月第1火曜日に行っています。新たに地区内の商店やサークル、元看護師の方が参加するなど広がりを見せています。



百歳体操に取り組む様子

複数連携事例  
県内事例  
県外事例